

流行語大賞にも
“ミニマリスト”が
ノミネート!

第3次「片付け」ブームは、部屋から何もなくなった!?

書籍『「何もない部屋」で暮らしたい』1ヵ月で4万部 突破!

株式会社宝島社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:蓮見清一)が2015年10月23日に発売した『「何もない部屋」で暮らしたい』が、**発売わずか1ヵ月で4刷4万部**を突破しました。

本書では、**必要最低限のものしか持たない暮らしをする「ミニマリスト」と呼ばれる人たち10人のインタビューと実際に暮らしている部屋の写真を収録**しています。

「ミニマリスト」は、「2015ユーキャン新語・流行語大賞」にノミネートされるほど注目されており(12月1日大賞発表)、堀江貴文氏、高城剛氏、スティーブ・ジョブズ氏もミニマリストとして知られています。

ミニマリストが注目されるようになったきっかけは、WEBにアップされた、まるで引っ越し後のように「何もない部屋」の写真。そのシンプルな暮らしに共感が集まり、SNSでは「何もない部屋」の投稿が急増。もともとシンプル志向だった人だけでなく、モノにあふれた部屋に住んでいた人が一念発起して「何もない部屋」にした例も多いようです。

これまでも、2000年に『「捨てる!」技術』(辰巳渚・著/宝島社)、2010年に『人生がときめく片づけの魔法』(近藤麻理恵・著/サンマーク出版)がベストセラーになるなど、片付けブームが起こりましたが、第3次片づけブームとなる今回は、「捨てる」「収納」というよりも、「何も持たない」という新しいフェーズを迎えています。

本書の購入者は40代・50代の女性が6割以上で、部屋をきれいに片付けたいという思いを抱える主婦が多数です。また、若い読者からの反響も大きく、その世代の所有欲が減ったことや、カーシェアや服のレンタルなど、自分のモノを持たずにシェアする文化が定着しつつあることがその要因であると考えられます。

本書では、一人暮らしから小さなお子さんがいるファミリーまで、様々な住まいのミニマリスト10人が実際に住んでいる部屋の写真(リビング、キッチン、クローゼット、子ども部屋まで!)とインタビューを収録。ミニマルな生活を始めたきっかけと収納術のほか、「時間に余裕ができて、やりたいことができるようになった」「家事についてあぐさく考えるストレスがなくなった」など、モノを持たないことで見えたメリットについても語っています。

宝島社は、企業理念「人と社会を楽しく元気に」のもと、今後もより多くの方に喜んでいただけるコンテンツを企画開発・提供してまいります。

取材対象者の
ご紹介も可能です

次はあれしなきゃ、これしなきゃと
家事についてあれこれ考えるストレスが
なくなりました(ゆるりまいさん・漫画家)



※ロフトスペース



※子供部屋

生活がシンプルになって時間に
余裕ができ、自分のやりたいことが
できるようになりました
(小豆さん・会社員、ブロガー)

『「何もない部屋」で暮らしたい』
ミニマルライフ研究会・著
■発売日: 2015年10月23日
■定価: 本体1100円+税